

きょういく・さど



平成21年5月7日

第11号

佐渡市教育委員会学校教育課

揺がぬ教育理念の確立を

佐渡市教育長 渡辺 剛 忠

平成21年度がスタートしました。今年度から新学習指導要領が幼稚園では本格実施、小・中学校では平成23年度・24年度実施に向けた移行措置の取組がなされています。

各小・中学校では改訂の趣旨に沿って、学力の定着・向上、特に言語活動や理・数教育の充実を図り、豊かな心・健やかな体、倫理観や規範意識の高揚を図る等、教育内容の改善が一層求められます。

佐渡市では平成18年2月に「佐渡市学校教育基本構想」を策定しています。今年もその3つの柱(学力の定着・向上、郷土を学ぶ、キャリア教育)を検証し、その具現化に努めます。

昨年度、その柱の1つ「郷土を学ぶ」(佐渡学)の教育活動が総合的な学習の時間等で展開され、小学校長会では「ふるさと佐渡を愛し豊かに育つ児童を育成する活動」として冊子にまとめました。それによると、すべての小学校で、現在佐渡市が取り組んでいる「朱鷺・ピオトープ」「佐渡金銀山」「伝統文化・芸能」の学習活動が実施され、それぞれの学校の取組内容が報告されています。

「朱鷺・ピオトープ」学習では、朱鷺とかわる多くの皆さんへの聞き取り調査や、環境や人との関係についての調査、ピオトープ作りなどの体験学習を実施しています。

また、「佐渡金銀山」学習では金銀山の調査をはじめ、その長い歴史に裏打ちされた文化や人々の生活等を調べています。

そして、「伝統文化・芸能」分野では、学区や佐渡に今も息づく伝説や伝統芸能、芸術などの調査や、体験活動等が展開されています。

今年度も、お互いに揺るがぬ教育理念をもち教育活動に一層努めていきます。

平成21年度 佐渡市学校教育の重点

佐渡総合教育センター

所長 小林 祐 玄

『佐渡市学校教育基本構想』の考え方を基に、学校教育の基本目標を「**確かな学力を身に付け 夢と誇りをもって 自立する人づくり**」とします。

そして、次の5点を重点とし、具体的施策を実施します。

夢と誇りを育む魅力ある学校の実現

意欲をもち、確かな学力を付ける教育の充実

郷土を愛し、夢と誇りをもつ教育の充実
生きがいを見付け、自立を目指す教育の充実

学校教育の基盤整備と充実

子どもたちが自信と意欲をもって学び、夢と誇りをもち、魅力ある学校を実現することが大切です。そのためには、各学校は自校の教育課題を明確にし、教育活動の見直しと改善を図るとともに、子どもたちが落ち着いた態度で学習し、礼儀正しい学校生活を送れるようにすることが重要です。また、各学校が開かれた教育活動を展開し、保護者や地域の人々と課題を共有し、理解と協力に支えられた信頼される学校にしていくことも必要です。

そのためには、校長会や教育研究会等の関係機関と連携して、学力向上のための授業改善や家庭学習の定着と意識改善、いじめ根絶と不登校の解消など学校教育を支える基盤の充実と中長期的な課題である適正規模を目指した学校統合を推進し、必要となる施設・設備の改善と安心・安全な学校環境の整備に取り組んでいきます。

皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

新指導要領スタートにあたって

管理主事 児玉勝巳

全国学力テストが4月22日に実施されましたが、このことをめぐって各メディアが報道していました。その中で、ある大学総長が述べていた所感が印象に残ったので紹介します。

『・・・一つのエピソードである。ある子どもが小学生の頃、古い卵と新しい卵を見分ける方法を授業で習った。黄身が高く盛り上がっているのが新しく、黄身が平べったくなっているのが古いと教わった。

ところが、これが後で試験に出たのである。「図のような二つの卵があります。あなたはどちらを食べますか？」子どもは迷いなく平べったい方に丸をした。彼以外のクラスメートはみな、盛り上がっている方に丸をした。結果、彼だけが「誤答」とされた。

その子にしてみれば、冷蔵庫から二個取り出して、賞味期限に差があれば、まず古い方から食べるというのが当たり前のことである。それが不正解とされて、その子はひどく傷ついたのだった。・・・』

誤答とされた子どもは、両親が共働きのため自分で料理することも多く、家事という文脈の中で、自分ならどうするかと考えました。

大学総長の所感は、問題の出し方も悪いが、誤答とされた子どもの方が生きる力を持っているのではないか。また、本当の学力とは何かを問うています。そして、「社会的な現実においてはきちんとした一つの正解はなく、相対立する意見のなかで右往左往することが知性をはぐくむ。」と結んでいました。

新学習指導要領が改訂され移行措置がスタートしました。新指導要領でも「生きる力」をはぐくむという理念は変わりませんが、理念を実現するための具体的な手だてを確立するという観点から改訂されています。

増加した授業時数や指導内容に右往左往することなく、子どもたちが、本当の生きる力を身につけることができるよう、新指導要領の趣旨を生かし、同僚・保護者・地域の人と、共に力を合わせていくことが大切です。

新型インフルエンザ対策

管理主事 児玉勝巳

1918年に流行した「スペイン風邪」では、全世界で4000万人、日本でも48万人の死者が出たといわれています。このインフルエンザの源は米国だったようですが、戦争による軍の移動と情報統制下で感染を広げたといわれています。

新型インフルエンザの警戒レベルが「フェーズ5」になりました。情報はすぐ入る時代ですが、この問題については学校でも危機意識を高くもって適切な対応をお願いします。

佐渡市では4月27日に防災管財課内に「佐渡市新型インフルエンザ情報連絡室」を設置しました。また、新型インフルエンザに関する健康相談先は次のとおりです。

- ・県庁健康対策課(025-280-5200)
- ・佐渡保健所(74-3403)
- ・佐渡市健康推進課(63-3115)

今後の関係機関からの情報に留意してください。

佐渡市教育委員会学校教育課では、次の2名の指導主事の異動がありました。

(退職)

教育指導主事	銅 郁 夫
教育指導主事	本 間 恵 次

(新任)

教育指導主事	濱 田 毅
・生徒指導関連業務	
・人権・同和教育関連業務	
教育指導主事	逸 見 修
・佐渡総合教育センター関連業務	
・就学・教育相談関連業務	

学校教育課の広報紙「きょういく・さど」を昨年度に引き続き発行します。年間5回発行予定です。限られた紙面ですが、いろいろな角度から教育情報を発信したいと考えています。今年度より佐渡市のホームページにも掲載しています。よりよい広報紙とするために、お気付きの点やご意見をお聞かせください。(学校教育課：担当)